

蒲田地区優秀作文



私をとりまく税

大田区立東蒲中学校 三年 川又 佑弥

SNSにこのような投稿がありました。「二〇一〇年代初頭に出産した人と、ここ数年で出産した人の格差がヤバイ。今は幼稚園、保育園無償化だし、小児医療費支援もこの十五年で驚くほど拡大した。一番苦労したのは二〇一〇年初頭に子を持った層。」

私は二〇一一年生まれで来年十五歳になります。この投稿をした人が指している年にぴったりと当てはまります。私はこの投稿を読んで、現在と私が生まれた十五年前とは子供に対する支援がどのように違っていたのかに興味を持ち、調べることにしました。

十五年前の幼稚園、保育園には月謝がありましたが現在は無償です。私たちの給食費も令和六年から無償となっています。子ども手当も十五年前と比べると、支給額の引き上げや所得制限の撤廃などが実施されています。また、出産に関しても、十五年前の出産一時金は四十二万円でしたが、令和五年から五十万円に引き上げられています。

無償化や支給額の拡充などの直接お金を受け取ることだけではなく、十五年前と現在とでは、出産や育児に関するサポート体制も違うことがわかりました。保育園待機児童ゼロを目指して保育施設の整備や保育士

不足を解消しています。私は十五年のことについて両親に聞きました。私が生まれた十五年前は保育園に入るのが難しく、〇歳児から入園を希望しなければ入れなかったそうです。そのため、私は二〇一一年の一月に生まれましたが、その年の四月には保育園に入園しました。生まれてすぐの通園だったため、せめて一年ほどは自宅で面倒をみたいと思ったのですが、そんなことをしていたらいつ保育園に入れるかわからない状況だったそうです。現在はそのようなことをしなくても入園したいタイミングで入ることができるそうです。

現在と十五年前の違いを調べたことで、子育てに関する支援が大きく変わっていることがわかりました。年を重ねることに支援が拡充していることもわかりました。そして、その財源は全て税金です。二〇一〇年から現在までには東日本大震災やコロナ禍など多くの非常事態も発生しています。このような事態にも税金が使われ、街の復興や人々の生活をサポートしています。この十五年の間に、税金は私たちの生活をより良くするために使われていることがこの調べによってわかりました。

私は卒業後には高校へ進学しようと考えています。高校も授業料無償化と税金の恩恵を受けています。いつか社会人になり、自分が次世代のために税金を納める立場になりたいと思います。